

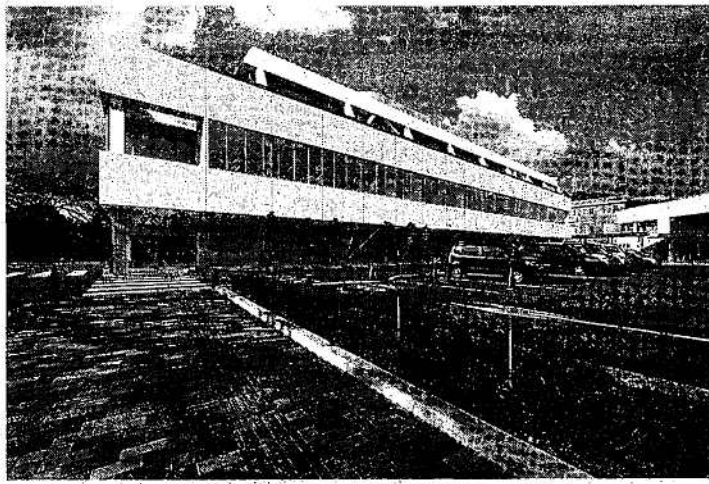
総事業費25億9000万円

来夏開設へ6月に着工

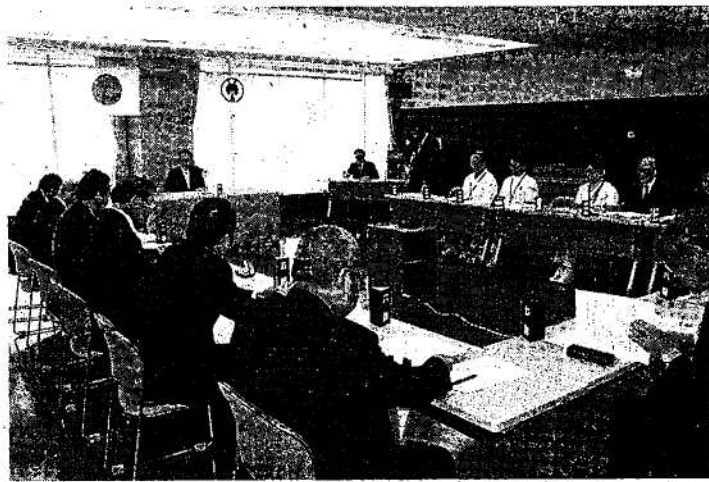
公病の「産科婦人科診療棟」

来年夏の開設を目指す公立岩瀬病院「産科婦人科診療棟（仮称）」の建設概要が、17日に開かれた同院臨時議会の席上で示された。地上3階建てで年間600件以上の分娩対応ができ、普通病床30床、新生児集中管理室（NICU、GCU）9床を備え、総事業費は25億9000万円を見込んでいる。昨年10月から取り組んできた産科婦人科診療棟（仮称）基本設計が出来上がった。今後は6月に実施設計を作成し、来年7月の着工、来年7月の

完成、8月以降の開設を目指す。新たな診療棟は現外来棟正面玄関南側に位置し、万が一に供え手術室や小児科病棟と渡り廊下で連結する。敷地面積は2万8300平方メートル、延べ床面積は3350平方メートル、鉄骨造3階建て（耐火構造）で、1階には玄関、ロビー、渡り廊下増築に伴い鍼灸室を移設する。



外来棟南側に新設する診療棟イメージ図



産科婦人科診療棟基本設計を説明

2階は産科婦人科病棟、分娩・陣痛室、検査室など、3階は産科・婦人科外来、新生児集中管理室（NICU、GCU）を配置する。既存診療棟と渡り廊下で連結することで、水平動線が確保され連携強化が図られるとともに、あらゆる場面でバックアップ体制が

事業概算として調査・設計費9400万円、工事費（増築、連結部分解体・改修、外構工事など含む）18億2400万円、医療機器・備品など購入費6億7200万円で、総計25億9000万円となる見込み。ただし、建設費は大きく変動する可能性を残している。

財源問題については、企業団構成市町村（須賀川市、鏡石町、天栄村、玉川村）と「安心して産み育てることのできる地域づくり」理念を共有し、必要な協議を重ねるとも、県が新設した県地域医療介護総合確保基金事業採択新生手続きを進めている。

伊東幸雄企業長は議会冒頭で、診療棟建設にあたり、安心して子どもを産み育てることのできる地域づくりを目指し同院への産婦人科開設を目指す、須賀川・岩瀬及び石川地方地域医療懇談会における地域合意を説明し、「この機を逃すことなく、情報を共有し、地域の重要な課題として共通の認識のなかで事業を進めて参ります」とあいさつした。

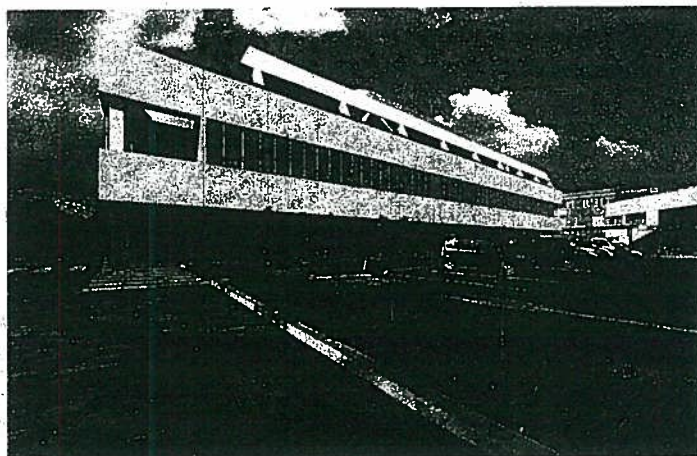
議題は診療棟実施設計に向け、今年度予算に6000万円を追加補正した。

産科婦人科診療棟を開設

**公立岩瀬病院企業団議会で臨時会
実施設計委託費6千万円増額**

現在の駐車場に鉄骨造3階建て
新生児集中治療室(NICU)設置
総事業費26億円かけ、来夏開所目指す

公立岩瀬病院企業団議会の臨時会は十七日午後、同院内で開かれ、産科婦人科診療棟(仮称)の実実施設計委託費として六千万円増額する事業会計予算案を可決した。



医療を目指す」と述べた。財源問題については、構成市町村と協議する外、県には新たに創設された「福島県地域医療介護総合確保基金」への事業採択に向けて申請の手続きを進めている。

車場に建てられる。鉄骨造の三階建てで延べ床面積は三千三百五十平方メートル。一階は駐車スペースが設けられる外、受付、会計、待合フロンジ、鍼灸室など。二階は婦人科・産科各病室十五床、食室、スタッフステーション、新生児室、分娩室、陣痛室など。三階は新生児集中管理室としてNICU(新生児集中治療室)三床、GCU(新生児治療回復室)六床、感染(隔離)室外、産科・

婦人科各外来などを置く。これにより三十九床増となる。診療棟の二・三階は各階外来棟で結ばれる。総事業費は二十五億

九千万円の見込みで今年六月に着工し、来年夏以降の開所を目指している。議会で先立ち、伊東幸雄企業長は「県は年度末に予定している県産期医療協議会の意見等を踏まえ、当地域での産科・婦人科医療の提供体制の確保に取り組み考えて、今後も整備された施設を最大限活用し、地域連携に努めながら地域完結型

マメタイムス 27-2 18

産婦人科棟 概要示す

岩瀬病院企業団の臨時議会



産科婦人科診療棟(仮称)の完成予想図

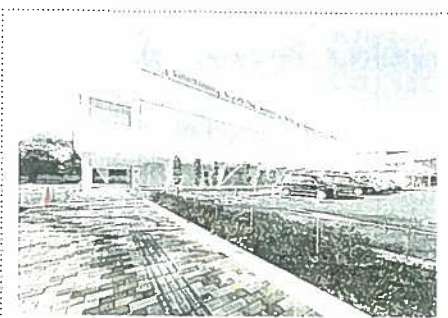
公立岩瀬病院企業団議会は十七日、須賀川市で臨時議を開き、新生児集中治療室(NICU)の設置などを盛り込んだ同病院産科婦人科診療棟(仮称)の概要と完成予想図を明らかにし

た。六月から工事に入り、来年夏以降の開所を目指す。増設する診療棟には、超未熟児などを診療する治療室を3床、一定程度症状が改善した乳児を扱う治療室

を6床設置。このほか産科、婦人科にそれぞれ15床を備える見通しだ。診療棟は現在の駐車場部分に整備する。施設3階に新生児集中管理室と産科、婦人科外来が入り、2階は病室と分娩室、陣痛室、1階は受付など。小児科病棟や手術室など既存外来棟との連携をスムーズにするため渡り廊下でつなぐ。鉄骨造り3階建てで延べ床面積3350平方メートル、建築面積は1570平方メートル。建設費は25億9千万円の見込み。

福島民友 27-2 18

開設の産科婦人科診療棟 岩瀬病院 実施設計予算を増額



産科婦人科病棟の基本設計に基づいた完成予想図

須賀川、鏡石、天栄、玉川の四市町村で構成

する公立岩瀬病院企業団議会の臨時会は十七

日、須賀川市の同病院で開かれ、産科婦人科診療棟(仮称)の実設計委託料として六千万円を増額する事業会計補正予算案を可決した。診療棟は平成二十八年夏にも開設が予定されている。今年の中五月中に実施設計を行い、入札を経て六月にも着工する。

臨時会では完了した基本設計の内容が説明された。基本設計によると診療棟は現在の駐車場に建てられる。鉄骨造り三階建て、延べ床面積三千三百五十平方メートル、一階は駐車スペースなどを取る。二階は産科婦人科病棟と分娩(ぶんべん)室、陣痛室、三階には新生児集中管理室や産科と婦人科の外来を置く。外来棟と渡り廊下で結ばれる。総事業費は二十五億九千万円の予定。

議事に先立ち伊東幸雄公立岩瀬病院企業団企業長が「施設を最大限活用し、地域連携に努めながら地域完結型医療を目指す」とあいさつした。

福島民報 27-2 18